

1)活動の背景

小諸市は、北国街道の宿場と城下町の歴史のある、人口約4万人の高原の町です。

江戸から戦前までは北国街道の物流の拠点として栄え、豪商の町並みを今に伝えていません。

しかし近年の中心市街地の落ち込みは激しく、町並み以前にまち自体の存続が危ぶまれる事態となっています。

そのような状況の中で小諸市は、小諸市では平成10年より、国土交通省の補助事業である「身近なまちづくり支援街路事業」および「街なみ環境整備事業」が導入されました。そして、行政の主導により歴史地区の街路整備、修景事業、コミュニティ施設づくりが推進され、地区ごとに事業の受け皿となる地区まちづくり推進協議会も立ち上がり、計画の50%以上の事業が終了しつつあります。平成12年度からはじまった修理修景事業も、平成14年度までで34件が対象となり、徐々に町並みの雰囲気が変わってきています。またその中で事業の課題なども見えてきており、こちらへ一度、修理修景事業の手法についての点検を行なってもよいのではないかとこの声があがってきています。

一方で、平成14年4月にはTMOが認定され、商工会議所を中心に活性化に取り組んでいます。

ただ現在の所は、まだ都市計画課サイドの町並み整備とTMOによる活性化をリンクさせるプロジェクトはなく、町並みを活かした活性化のプランが必要になってきています。街環事業とのかかわりでいうと、修理修景事業により商店街の雰囲気づくりや魅力ある店づくりにむすびつくような手法が必要ではないかという声もでてきています。

2)活動の経緯と目的

私達の会は、市が歴史事業を導入しようとしている平成10年に、少人数の市民有志によりスタートしました。

その時の状況では、市民の間にあまり町並み保存による活性化という気運はなく、市民側でも歴史のまちづくりへの啓発活動に取り組もうと考えたのです。

その後、私達の会は、多くの市民を巻き込んでの町並みの再発見活動、地区ごとの魅力を考える会、歴史資源を活性化にむすびつける方策づくりなど、ソフトからのまちづくりに取り組んできました。それは、コンサルタントが策定したハードの整備計画ありきの市の進め方と、時には合わない時もありました。

私達の活動の重要なポイントは、地区環境の整備については、私達自身が独自の案をつくり行政にぶつけるのではなく、常に支援という形で地区(主にまちづくり推進協議会)に入り、その地区の住民の意見をまとめて市民案をつくるというスタイルをとってきたことです。

町並み調査の成果や提言を地区協議会に投げかけたり、地区の要望でワークショップを実施したりというかわりを重ねるうちに、たとえば始めは市から来た事業案に対しての「対策協議会」と称していた地区に、「みんなでまちの未来を考えよう」という雰囲気生まれ、会の名称も「推進協議会」とあらたまりました。

そのような活動の結果、徐々に私達の会に各地区で課題をかかえた人が参加してくれるようになり、当会は地区を横につなぐ人のネットワークや情報交換の場として機能するようになってきました(それまでは地区どうしのつながりはほとんどありませんでした)。

また、千葉大学の福川先生が学生をつれて熱心に小諸にかかわってくださったこともあり、私達の仲間はしだいに伝統的な建物の特色や魅力、歴史資源を活かしたまちづくりについて理解を深めていきました。この2年ほどは、地元の設計士や職人の方の参加が得られ、千葉大学や NPO 法人・信州伝統的建造物保存技術研究会と連携して、建物ディテールの実測調査も行っています。

今回の調査は、1)でも書いたように4年を経た修理修景事業を、こら辺で検証して、よりよい事業の進め方を考えてみたいという協議会関係者の声を受けて、私達の会が企画しました。

また、その延長線の要望ではありますが、地区の特色にあわせていねいなデザインの手引きが必要となっているという声を受けて、これまでのわれわれの長年の調査の成果をとりまとめ町並みデザインの手引をつくらうということになりました。

当然ですが当会は事業の主体ではないので、修理修景事業にかかわる調査のスタンスは、客観的に事業の進捗状況を調査分析し関係者のみなさんに情報提供をすること、新しいしくみづくりのお手伝いをすることです。

町並みデザインの手引きにつきましては、修理修景事業のためばかりでなく、小諸の街の中の建築デザインに広く活用していただくために、つくることとしました。

3)活動の内容

(1) 修理修景事業の課題整理と、NPO が役割をになう「しくみ」の提言

これまでの修理修景事業の課題の調査

- ・これまで修理修景事業の助成を受けた施主に対するアンケート(12件)
- ・修理修景事業関係者へのインタビュー調査(13名)～課題の抽出

修理修景事業の関係者による、よりよいしくみの検討

修理修景事業にかかわる方々による、事業の検証とこれからできることの検討

第1回 検討会 1月20日 1時～4時 こもろ情報ひろば

参加者(敬称略) 10名 /

地区まちづくり推進協議会 井澤、掛川、清水、甘利真澄
修理修景審査会 審査委員長 土本俊和
建築設計士 甘利享一、佐藤重
千葉大学 福川裕一 水庭聡子
町並み研究会事務局 荻原礼子

内容 / ・この調査の進め方の確認

- ・アンケート、インタビュー調査の進捗状況
- ・修理修景事業にかかわる課題の出し合い
- ・「町並みデザインブック」の主旨と内容について検討

第2回 検討会 2月12日 7時～9時 町屋館

参加者(敬称略) 10名 /

地区まちづくり推進協議会 井澤、掛川、清水、小川、松井
建築設計士 佐藤重
町並み研究会事務局 佐藤英人、友野貴久美、

内容 / ・地区協議会の代表者による意見交換

- ・ NPO の修理修景事業へのかかわりについて

修理修景事業への提言のまとめ作業

- ・「課題の整理と提言」の報告書作成
- ・協議会関係者を通して市に提言

(2)「町並みデザインブック」の編集

修理修景事業を進める中で、施主や建築デザイナーからその必要性を指摘されているデザインの手引きをまとめるために、以下の活動に取り組みました。

編集会議(実地調査ふくむ)

第1回 編集会議 2月16日 1時～4時 こもろ情報ひろば

参加者(敬称略)

地区まちづくり推進協議会 掛川俊雄、清水克彦、甘利真澄
建築設計士 甘利享一、佐藤重、大竹
NPO 法人信州伝統的建造物保存技術研究会 吉沢政巳
千葉大学 福川裕一、加藤、田中
町並み研究会事務局 荻原、友野

内容 / 「デザインガイドブック」の主旨確認

- ・ワークショップ形式で、内容案について意見を出し合う
- ・ガイドブックの内容構成と作業分担

第2回 編集会議 3月2日 1時～5時 こもろ情報ひろば

参加者(敬称略)

地区まちづくり推進協議会 掛川俊雄、清水克彦、甘利真澄
建築設計士 甘利享一、佐藤重
NPO 法人信州伝統的建造物保存技術研究会 吉沢政巳
千葉大学 福川裕一、加藤、水庭
町並み研究会事務局 荻原、友野

内容 / まち歩き調査(2時間)～編集会議

- ・歩きながら各地区の特徴となる要素をチェック
- ・修理修景の際の課題を抽出
- ・デザインカタログの要素を抽出
- ・もくじ案についての検討

第3回 編集ワークショップ 3月18日 1時～5時 こもろ情報ひろば

参加者(敬称略)

地区まちづくり推進協議会 掛川俊雄、清水克彦、甘利真澄
建築設計士 甘利享一、佐藤重
NPO 法人信州伝統的建造物保存技術研究会 吉沢政巳
千葉大学 福川裕一、加藤、水庭
町並み研究会事務局 荻原、友野

内容 / 原稿を持ち寄って突き合わせ～内容確認

- ・デザインのポイントについて、ワークショップ形式で意見を交換

調査活動、編集作業

分担して、調査および編集作業を進めた。

(調査)

- ・街道沿いのファサードの写真撮影
- ・すぐれたディテールデザインの事例の抽出～写真撮影および図面おこし
- ・古い建物の写真の収集と町並みの変化の調査

(編集)

- ・小諸の町並みデザインの特徴をグラフィックにまとめた
- ・地区の方と一緒に、地区別の町並みの特徴についてまとめた
- ・デザインを進めるうえでの Q&A をまとめた

(3)活動の特徴となっている点

- ・修理修景の委員長を交えて、住民が主体となって、修理修景事業のしくみについて検討することができました。
- ・区まちづくり推進協議会とNPOにかかわる専門家が、うまく連携して、町並みの調査や地区のビジョンづくりを、地区住民が加わってまとめました。
- ・過去の町並み調査の関係者が集い、町並みデザインの手引きについて検討し、まとめることができました。(ナショナルトラストの調査、千葉大学の町並み調査)
- ・地元の建築家がいっしょに調査、編集にかかわることで、技術者の研修の場になりました。
- ・NPO とまちづくり推進協議会がいっしょに町並みデザインのマニュアルをまとめたことで、今後の地域まちづくりでの連携のベースができました。

4)活動の成果

(1)修理修景事業の課題整理としくみの提案

修理修景事業を実施した施主の声(アンケート調査より)

- ・事業によって、修理活動が促進されたと感じている。
- ・しかし建て替えへの欲求に対し、町並みを守り活用して行く意識は形成されていない。
- ・協議会組織は認知されているが、利用はされていない。

ヒヤリング調査のまとめ(時間軸に沿って、問題点を整理)

【審査会に関して】

- ・住民への説明会は補助金の対象と補助内容など金額にまつわる話を中心である。
- ・設計士と住民組織(協議会)が接触をもつ機会がない。
- ・審査会に出席する協議会役員が、見る事が出来るのは図面書類だけである。
- ・図面が配布されるのは、申請後で審査会の一週間前である。
- ・審査会に出席する建物を建築的に検討できるのは、実質的には学識者のみである。
- ・審査会において、設計プロセスや設計意図は説明されない。
- ・審査会で協議された内容は設計士に返信されるが、その回答をもって申請通過となりどのように改善されたかは議論されない。
- ・工期は3月までに終わらなくてはならない。

【修景基準に関して】

- ・修景基準は、建築士が参考にし利用するためには内容が不足している。
- ・修景基準は施主が参考にするには内容が硬直化し(青写真的で)身近ではない。
- ・修景基準は協議会が利用するためにはバリエーションが少なく、また創造的でない。
- ・基準に軒天、化粧垂木と書いてあるにもかかわらず防火地域のためそれが出来ない。

【その他】

- ・建築士の町並み・歴史的建物に対する学習不足が指摘されている。

よりよい「しくみ」の提案(ワークショップによる提言づくり)

事業スケジュールに、学習&相談会を設定してはどうか

行政のアンケートで、修理修景したいと考えていると答えた施主と担当する建築家に参加してもらい、各協議会が主催して学習会を行なう。

これをNPOが共催でバックアップする。時期は、12月～1月。

内容/町並みデザインの考え方を伝える(デザインブックを役立てる)、個別の建物について意見交換、活用(お店づくりなど)についてのアドバイス、情報提供。

注意:あまりオープンな会だといやがられる

利点

- ・ 施主に活用への意識をもってもらう。
- ・ 協議会と設計者の顔を知らせる。
- ・ 図面になる以前に協議会が意見を表明できる場を作る。

期待できる効果

- ・ 協議会が主催することで、出席。
- ・ 設計士にとっては仕事の過程で学習が組み込まれる。

将来的には NPO がその後の相談も受けられるように NPO の顔を売る。

学習会以降も、必要により NPO が相談にのる

NPO は、開かれた町並みの学習会を続けていく必要がある。

* 課題となること

- ・ NPO 側の専門家の体制がつかれるか
- ・ NPO の活動資金をどうやって確保するのか
できれば行政で支援してほしい

(2)「デザインの手引き」の内容

「デザインの手引き」の必要性(話し合った内容)

- ・ 小諸のデザイン基準は、須坂のものをもとにしているので、見直しが必要だと思う。小諸の特有なデザイン、明治以降の建物についての指針がない。
- ・ 実際に家を修景したい施主と設計者にわたす。来年修景する人にも渡す。
- ・ はじめのほうに、「なぜ古い建物を大事にするのか」を考えてもらうページを入れる。
協議会の人、伝統的な建物の持ち主に、建物の保存をお願いする時に役立つような説得力のあるもの。
古い建物の維持は大変で、壊したほうがずっと楽。そうなると、なぜ古い建物を残すのかというところの話になる。それを伝えるような資料が欲しい。
- ・ 地区の特色を、その地区を将来的にどんな町並みにしていきたいのかを、地区の人といっしょに話し合っ
て入れたい。(各見開きで)
- ・ ファサードデザインの考え方として、どんなアプローチがあるのか、紹介する。
- ・ 基本的には、町の中に残る、あるいはかつてあった「よいデザイン」を、小諸らしさとして継承、発展させて
いくという考え方。 デザインカタログをつくる
- ・ 昔の写真と今の写真を対比させるコーナーをもうけ、デザインの指針を示す。失われた建物の写真も入れ
よう。洋館とかも。
- ・ 色はむずかしい、素材として紹介していく。

「小諸・町並みデザインブック」の目次

「みんなでつくろう！」

歩きたくなるまち(商業と観光おこし)、暮らしやすいまち、文化のあるまち」

はじめに / なぜ、伝統的な町並みを見直すのか？

1章 小諸の町並み紹介 p1

「伝統的町並みは、小諸の歴史、風土、生活文化を伝える宝物です」

1、小諸の町並みの美しさとは p2.3

街道沿い / 商都の歴史 / 城下町 / 坂のまち (地形の豊かさ) / 文学の香り / 路地と背景の緑
町並み & 周辺散策 / 浅間山、アルプス、雲、夕映え、川の音

2、小諸のまちはどのようにつくられてきたか (形成史と現在につながる雰囲気) p4.5

・商都の物語りを伝える町並み (通りの特徴 / 集積している街区)

3、商家の暮らしと空間デザイン p6.7

・鳥瞰パース / お店のようす、奥の醸造倉と倉庫、台所で働いている人、お家の人の部屋

4、信州の気候風土を感じさせる町並み p8

2章 魅力的な「通り」をつくろう (北国街道、大手地区) p9

「美しさ、にぎわい、住みやすさのデザインを受け継いで、魅力的な町並みつくろう！」

1、通りに面した町並みデザインのポイント p10.11

道をひろばに 高さは3階までに 見えない駐車場 町並みをつくる母屋
山型の屋根 通りにさしかける深いひさし 通りに面して開かれた部屋
通りとつながる窓 通り客の視線を引き込む店先

2、通りに面した家づくりのポイント (伝統的建物に学ぶ) p12.13

いくつかの棟に分ける 気持ちのいい中庭 みせ ちゃのま ざしき 風と光と人の通
る土間 家の真ん中の「ちゃのま」

3、街角と路地の風景を大事にしよう p14

まち角、小路、寺の入り口 (写真集)
絵になる街角の家 緑の見える参道

3章 建物の外観デザインのヒント p15

「小諸の町並みの味わいは、

自然素材でつくった機能的デザイン + 店構えの工夫 + 町並みとしての調和」

1、建物のできた時の姿に学ぶ p16.17

- ・建てられた当時の姿、どのように手を加えられたかを知る（写真、図面などで）
- ・できるだけ復元という形で考える（なぜならば、建物の全体の中でのバランス、まわりの建物とのバランスがよいデザインだから）
- ・または、これは残したい、伝えたいという部分を考える

2、すぐれた伝統的デザインを取り入れる p18.19

軒 / 軒裏（あらわし） / 1 階格子 / 2 階格子 / ショウインドウ / 建具 / 戸袋 / 木戸・くぐり戸 / 腰壁 / 瓦 / 鬼瓦 / うだつ / 気抜き・天窓 / 小屋根 / 樋 / 看板 / 塀 / 中庭 / 窓 / 扉 / 腰壁
（洋風のみ）開口部 基礎 軒

3、素材と色を選ぶ p24.25

素材の美しい事例 / 写真と建物名称、場所

4、修景例の紹介 p26.27

修景前、修景後の写真とデザインのポイント（5～6例）

5、建築デザイン Q&A p38,29,30

- ・軒が切られているのをどう処理するか
- ・準防火地区の規制をどうクリアするか
- ・エアコンのかくしかた
- ・ビルの修景
- ・（施主さんが聞きたいこと）職人がいない / 材料が手に入らない / 自然素材はメンテが大変？ / 値段が高い？

4章 将来のまちづくりビジョンを描こう p31

町並みスケッチ・ミュージアムにむけて

1、地区別まちづくりビジョン

歴史背景 / 特徴 / 代表的建物（顔となる建物）写真 / 物語り（藤村、虚子など）を活かす

資源集積地区とデザイン手法 / 課題 / 活性化の方向性 / 拠点施設 / こんな店がはりつくとよい

全体ビジョン p32～37

本町 荒町 与良町 大手 市町

2、資源活用アイデア、店づくりの知恵 p38,39

個店 / 中庭を取り込む（飲食できる座敷の例、そば七、つたや、中吉）
看板のデザイン /
ミュージアム / 蔵ギャラリー、店先ギャラリー、2階の狭い部屋の活用？
まちのインテリア / のれん、照明
座る場所 / 縁台、スケッチベンチ（高校生の提案）
水と緑 / 藤棚、つた

3、残したい、活かしたいまちづくり資源 p40,41

図、伝統的な建物の分布図（北国街道周辺、大手地区）、その他資源、芸術家ゆかりの地、
絵になるポイント

5) 今後の展開

今回、歴史地区の通りの「デザインブック」がまとまりつつあります。また、地区まちづくり推進協議会とも、まちづくりの方向性を共有することができました。

来年度からは、さっそくこの「デザインブック」を活用し、以下の活動を進めて行きたいと思います。

- ・デザインブックの必要性を知ってもらい、行政や民間から資金調達をし、印刷にかけて、広く普及していく。
- ・デザインブック地区まちづくり推進協議会とNPOが協力して、建物のデザインにかかわる学習会に取り組む。
- ・デザインブック今回かかわってくれた地元建築家のチームを中心に、修理修景を考えている建物の持ち主が、立て替えの時に相談のできる体制をつくる。
- ・ランドマークとなるような建物の立て替えの際には、持ち主の協力をいただき、デザインワークショップなどを開いて、みんなで話し合えるような場をつくる。

6)活動のポイント

活動の人材

非常に広い範囲で、さまざまな方に関わっていただくことができました。

特に、過去に小諸の町並み調査にかかわってきた専門家、ここ何年かかかわってきた千葉大学チームなどのレベルの高い専門家が、いっしょにデザインマニュアルをつくることができたのは、小諸にとっては幸運なできごとであると思います。それらの専門家と実際に地元でデザインに苦勞している建築家のみなさんが共に、デザイン手法を模索することができ、お互いのよい研修の機会となりました。

また、地区まちづくり推進協議会の方と話し合いながら進めたことで、「なぜ古い建物を残すのか」「どんなデザインが小諸らしいのか」といった、住民サイドの「デザインの手引き」のニーズを編集に反映させることができました。

この素朴な問いにひとつひとつ答えを考えることを通して、住民と専門家がともに伝統的な建物、町並みの保存活用の意味を明解に共有することができました。また、保存活用を立脚点とする今後のまちづくりのビジョンを描くことで、「伝統を活かしたまちづくり」に説得力を持たせることができました。

活動のための資金調達

資金は、貴財団からの委託事業でまかないました。

今後、行政等に投げかけて、印刷費を得たいと考えています。

活動のネットワーク、支援

地区まちづくり推進協議会(本町区、荒町区、与良区、大手区)のネットワークで進めることができました。これまで、それぞれの協議会が集まって話をする機会は、あまりなかったということです。

外部の専門家として、千葉大チーム(責任者・福川裕一教授)、NPO法人 信州伝統的建造物保存技術研究会(責任者・吉沢政巳)の参加をいただくことができました。